源三位頼政集

源三位頼政家集下

恋

思へとゝいくて思ふれなきと衣なるらふみ[illegible]れあるる乳

同　于林氣令

萌出てまゝ三葉の[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]

悲

[illegible]人[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]氣[illegible]

為[illegible]ゝと欲くふはもて思ふとゝ思ハ悲とゝ[illegible]ん

人[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ハ[illegible]ん[illegible]

皇后宮作亮頼政朝臣　于合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後悔恋

[illegible]

散書恋

[illegible]

恋　清和院女流舎

[illegible]

逐夜増恋

[illegible]

恋千とて

世一[illegible]

[illegible]

隅川恋

山城の美豆那王の妹と重て業平の女流の舟[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みゝうりみとゆかよりこんまりうけつゝ
へうれとかさりとゝ
水茎ハ色とゝきりと書つめと花えあはゝ消のゝきゝ
せあてうゝ花人れとゝ
きゝとゝ我もうゝ
心ちかよゝ
思ゝしやゝあゝそうゝ
うれゝよゝ女子山里よりとりのゝきりときゝ
てゝうゝ小表と覚てをとゝ
ゝうゝよゝ
世のゝとゝ思ひ入ゝ山里ゝ

ゝ
思ひ思ひ思ひうゝと先角ゝ行らん言ゝ我を海とゝん
ゝちゝと思ゝいとゝうゝ
みてゝゝゝ
朝ゝ思ゝて
ゝ絶ゝあひゝ
ゝ神ゝ思ゝ
思ひてゝ女ゝ
乃ゝゝ
思ゝ
ゝ

[illegible]

あひてを[illegible]の池水とうたふ[illegible]

山吉と契りの如くなりしとかさねの事[illegible]

きゆくて次の月人と[illegible]

[illegible]

てとゝめ[illegible]

[illegible]

筏おろす松山川乃淺き瀬をみもはてぬうれしさ[illegible]

[illegible]

[illegible]消なりしふを河乃きゝ[illegible]

遇不告恋　清和院御宮歌

[illegible]

我独乃流れみちひれ浦乃[illegible]

恋　播磨守合

恋れんと　小野文行朝臣

[illegible]

會後隠恋

[illegible]

及曉遂會恋

絶歟姉[illegible]

失逢事　恋

[illegible]

返逆車怨

れとて爲ら我ら さへうて 絶ん 垂て 移ぐくと 思てひる車ら

不語絶涙悪

辭くらり 爲てよやりと乃ちりと 形相あらのさんちとろ

改名隠恋

行ふてふんとふ爲へて 思つれ 我と 妹とや 今ハ 移ひん

逆事とうんて 爲ろ 悪乃んとんくくみ 行ふ

引ふへ 妹ら 書もろこと れ 恋と 恨て 今て 移ひろれきろ

悪乃んれ 掛 寒と云

ど れて 爲ふ 悪ふ 枕ら 逆ふ 強れ 石ら 移くに

いとく 爲ら 為と 恨むろや 来 きに みとろと 思ひ 爲ちん

尊勝寺毋て人々 為ふ みれ行ふ

我 思ふ きて や 和ちろと 思ふと 起て を 俺 移 む ら 爲

行ふ人 とふ さ 悪 行ふ ろ さ 体 む ま と て 学 と 恨ら

ふれつ 行て 来 ふ よ 身乃 行と 思ひ ち ろ ま ふ ろ や め と と

見家思出恋　三休売舎

古と とふれ 物て ら 爲 ま ふ ん ら れ と と

人 ま て れ ら け ら 爲 れ と ち す と と ひ ふ

行ふ ふ ら ふ ら ふ れ と て

思ふ ら 下 ふ と 爲 ら ま ま く れ 爲 ら ろ ひ と 来 ま 爲

女れりとちり爲 爲 月 ふ ふ ら ふ ら ち ち

爲 と ち ふ 出 ら 出 ふ と と と と ち り ま ふ と り 爲 ふ ら る

かな

[illegible]

過門不入恋　千林莵舎

人伝かくしは明あまの戸とさしてしらぬ

蒲河恋　尾坂亭合

[illegible]こあ妹と栖と[illegible]

待不来恋

住吉の[illegible]と[illegible]

行路恋

[illegible]野上の里乃妹とたてつりてしらぬ渡りきわ

[illegible]と[illegible]

[illegible]

世[illegible]

歌林苑　恋十首内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅葉深き神のおもかげ多れば悲しうもあれ

海とろまは船ゆきとてあしの葦毋も中とさくと云へん

来不會悲

伊吉乃沖もりきうは松乃孫とみて海はまやを

寒夜増悲

ふゆ[illegible]人と思ふ稚枕をてふひらめとも

寂乃心

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄源氏恋　寄榊葉

人しれぬ物とそ思ふ榊葉の神のみ祓とも

寄俗馬楽恋

いとくきたなくふるまひし妹の門をくるんひちをしの家

観身不言恋

をしへとてかくまとかもの身なれとこひおてをそろく

寄弦射恋

わろ恋とかくしてはいかなる物ぞ人目をもとん

経盛卿寄合

うしろ影おもとなるまてあらはもこそあらはれて

後鳥羽院御歌上皆

かう猶てをそ奥ゝ妹とせゝ人たはけ門よかく爲をそ

恋乃伝授　大武重家云

我とくとにおゆる源や恋ゝて我と茂て寝と知らん

神乃上ゝ恋ゝ洞の交ゝて恋ハ混りとこそ思ひそうあら

命ゝ行ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ

久しく寄代作ゝあ女れりとしたゝ乃ゝ日ゝ

つゝの祝ゝ源ゝ恋ゝ

ゝゝゝ春ゝ恋ゝ恋ゝ山水と紅葉ゝ人ゝ

かくゝ作ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ

ゝゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ

ゝ

こゝろぼそく音ずれ山路の絶間なとハ言そ知るく
思ひて物ゝ女乃ゆひてうけ日みあまつ時又
いかゝとこゝろ
思へ毋ゝ出よりつゝく山あをとゝ浦とゝ分くゆつあ物うそ
立岡恋歌
物のくら松乃枝くけ水とのとゝ出ゆのうゝみやハせあ
いとハ毋ゝ我みゝ出ハとゝ乃れ石乃くゝ流よりいとさをそゝさ
岩菊花恋
浦ゝをゝふゝ人ゝそゝ出ふゝくゝゝあゝゝ神さ人梅人ゝきゝ

遊女恋

思ひゝ祈りゝもやみゝゝとあゝれあゝ住川上ゝゝゝゝ山つさ
古卧無実
ゝゝ妹と我ゝゝとゝゝゝゝ

言出後悔恋

云切ほ恋

依月増恋　右大臣家舎

時く思ふ恋

同憲我恋

秘知青恋

秘後者恋　法住寺殿會

返書恋

時く逢恋

雪島恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝもゑ紙はてとゝらうきはしはらうゝあら
女よろうりて清よはしけるく
まゝ孫けとゝこあゝされ紙むゝ清のひさ初きんゝとれもさ
はくゝ御戸女はうてきりときゝて公うきるもも
今八思ひ級ゝ人とゝとて東もとゝうゝみ侍り
しゝと女とゝうゝゝと思つゝきゝ侍ふて清ゝてゝ
清よゝうゝゝかゝうゝゝうゝゝの神乃一ゝ世ゝゝまて
ねまゝよけゝとゝうゝて乃侍ふ侍ふそしあゝ
孫ゝてゝ侍ふゝけ為
侍ふゝゝやゝとゝゝうゝん清ゆゝ今ゝ孫ゝゝとゝゝ孫ゝゝりゝつゝ
乃ゝゝあゝふゝとゝゝんゝと孫清ゝゝく

和歌をゝのゝゝとゝゝゝゝゝゝ孫書れいはのゝふゝむゝゝゝん
為ゝて久ゝゝく歌よけゝ女乃りとゝより五月ゝゝ
侍ふゝよけて侍ひつゝゝゝ為ゝゝ
ゝふゝゝゝゝゝゝ

曉窓　右大臣家會

鐘の音を独ぬる夢もいとゞやすらひて梅香を打ながめつる

後朝の花

恋しくて君に始めてうつろひぬれなる色とこそ知れ

名残ある紀伊の吹ぬ夕ぬれ菊の露もぬれてや袖のしぼるらん

明ぬとて出る涙は雪のあとをこれぬといひて行やゆきまし

むつまじき沖の事とは知なれとも初雁よりは初雁

送書待恋

恋章なみなりと思へる妹なりとやはゆるすらん紀伊守よりつかされ給ふ

紀伊乃国三河守よりつかされ給ふ

ふりはてゝをそうらう氣色なりと自門さうへれつる

そうし曲

八橋と吹上の浜とをこひしう思ひを出よ　ゝ川の里

恋

八橋の水と流ては　ゝと今来よ行くそ　ゝ思ひ乱まん

独の水と思ひやれとて女乃けとり

流てとゞまれなはいかゝ秋とも云よ　ゝ川の里

夕ぐれ乃ゝ　ゝ

夕ぐれ乃ゝ　ゝ

宮衣恋

我為ゝ　ゝ　ゝ　

立つ人あり時ありまたそなきこゑ絶もなき辨ぶ[illegible]そぬ中ぬひろきと

行路恋

らめて〜我身のやかたるむろ〜面新の流まてらひろり
歎伝者よりひとて新〜ひとをさてもみ〜新せん方たらき
たこて久〜くぬさろ男乃りとへ山みたうえ〜
あり女よかえり〜〜
うりろころわ〜かこれ〜石芝ぬ流りふきりとろて流さ

意

人をまあ木葉う下ぬ水なまも我独くれ山ゆ多源を
思ひ〜とろをそとをけられぬ和ろ胸よ〜くこひ〜きり
麻衣ろこれ流りひより多むへ〜めをけ〜の涙ゆりろり

人心行まこふ宿乃恋よはるの明ゆつなろ[illegible]ゆまりかきへ
久〜く音信行〜〜ぬ女れりとろりろ〜みつろ
ちんとく〜
ちろ〜ろきまあろ藻よ伝里ぬろ藻ぬ流ろ新はいをた
ぬ
海乃川藻ろ〜ろむ出ぬちろ〜ろ者ろ流きけ我物はて
恋のんと
渡川多とえ独よ安ろれきりや多せたを海ろ和葉ぬと
ぬひ〜ろ〜ひ行りし安乳多ろ〜ことあろ〜笑と
ぬ〜りとすみ行者ゆあろ山里へとろ流ろひとて
それろ〜ろ〜流と〜を広ろ〜〜流分とり笑ろ多

伊勢人乃りとをりのひまゆうけり
当乃ふれをとりにとゆうる為なりせるへりて相思ひ
なり
此所とを立て為りの形よ名れ乃ゑゑむ新と新まよ
おさ乃〳〵て乃てゑり女れとゆ〳〵くゆてはひひゑ
らひて伊ゑりよ女ゑひむふ付てうゑり〳〵そゑ
をゑ乃ゑゑ乃ゑゑひめゑゑゑて花乃盛てゆされゆゑ
恋　左京大夫弘補家会合
逢事ゆきさしゑゑ夏月流れゑりみゑゑりまゆの酒
旅恋
妹とゑまてゑ門生ゑ〳〵ゑり旅初洞を新もえ〳〵ゑゑ海

同　右大臣家会
思ひ乃や妹とゑめてゑ渡いゆれゑゑゑゑゑゑ乃ゑとゆ
七月十日比よ乃りと海りて伊ゑゑ遠〳〵ゑり
所紅つまんと乃の別と長早をゑゑふ長と思ひさゑめや
ゑへ〳〵
七夕乃契ゑゑりをゆりとんはゑゑゆ絶るも頼ゑさゑは
久〳〵ゑゑと伊まこ伊ゑゑゆ女よ十月朔日ゑよいま
たゑゑりけゆ菊よ付て所ゑゑ〳〵そゑ
夏ゑと我妹ゑゑゑゑゑゑゑ乃ゑ乃ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑ
小伊波
いさやひひゑゑゑゑ菊と新まれゑて人乃ゑれれゑゑ〳〵ゑ

さて後の後うつほひ今の菊ふけてみまこうら
ほうろ〜あり
ひろきあと然てあとあやん〜菊れ形む方ゆく稲ひよろう
ゆう
うれろう菊くうとそ恨〜我ゑうろ枕〜ゐまれん
後朔恋
ひとくあまいくと思ひ〜鶏ひもろと〜きそ〜ぶ〜き
恋
日ぬ〜ほ〜ふるゆ海されと恋ろうぶよんてやまま
見書懸恋
ゆこみてゆんうあさりゆろ我神や紅うめれうてるるん

返書日恋
約〜て何ろちとん玉れをゆ形〜さ海うそんそてくうゆ
湯傍女恋　法住寺殿命ゆく
ふ〜ひゆゆよほうゆ孫ゆ〜ひれ下ろう絶つひ行ゆ会ときて
遠所恋人恋　同
清奥ゆう孫とん恋て嬉ゆ形〜妹ゆ海ゆれとう〜れゆうゆ
観身不言恋
数ゆ〜ていひ出んゆとくめ清う高ゆ男や恋れ宮とめん
女ゆうらとけうう高ゆよそ〜入て行〜よ行ん恋
てんう海ゆきをうとんく
何ろうれ君ゆ下泡むそうん〜きんそれもゆるん

悲乃公をへ〳〵清作り
はまことなる人へはまことをみてとあるよりあるいは海地きり
をくれて弱らら涙をとして海宮の海は幾重とをあるさへ乃つらへ
今ひさは悲をとをれ〳〵ん乃ひとて泊まあるれへはそもくれ
妹なるとひとの乃髪とうるをて作る泪をむとぬるまし
ちりはへあも深衣袖ちろ〳〵もやをして行人ぬえの分
下安袋あふとうるをとうみ作りよ
我ふるふあかえ〳〵ふ泊へをんまをみよろへきへはさぬうと
寄り草悲乃公乃袋
るとて家をあなる袖とぬあ袖んあれへそ林は寄ものを
あへへうをあ袖ぬうるをて山里へ行うれ分へ

とへうう〳〵袖ぬうを今一度人泊てあるて物と
をやうんとて海うをうをひあ亦ようへをて
はまうりをれんをへりあるひ作てまく
とあけりうさはうてぬ亦拾うきぬとをれいさ
泊うよ表とや思ひをん袖てちりるえうり濡
あ涙をとるひたるへをうをうりあるて袖よ
ク乾はをて海りけり
今ひとて服をく衣乃袖をれ我独はをあるさりをり
二月廿日はまり乾泊とふ南殿乃花乃んとをく海
いへをうありへを河へ安房はりとうりあるあき
うと表よ泊うへうりうへさよへ海うへを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

う屋ー
を結ー丸花と海ー入新ちを行ちうき人海ーとそ心
行ふ女ー始てあひて物こーふ和とけうとか
ゆーしてゆーてゆーてゆーはうーあ
あひもとひけをもあーあ人ふきふあとあうふ丑泳てうん
えとうの月れ車のえちこそけまてもいひはうハ
しあーしーうは
と和ーてそ和ーうあ身あをけひて年お悪と見えお年
思ひとちる人丑ちーー車ーうけーひてーそれ人よ
ひとあて宝ふせまりーくとーう
南駅ハえゆーしあて宝ふとーうふ丑ーに

ちうふひうふひうハ海てゆとしをうふ花ーうみよ早れひうよ
ゆーー
今ーう和和花ふーとーひあて山ちうハとーしーーとハ
丑ーよーーふて行ひて和ーよ行ーうーき
越あとーえーて笑ーーれ舎場れ間ーふーうめうを丑ゆん
ハーー
いて表ゆるゆーー記ーよみてあお坂の年ーふとーうめーもせ
ーちーけ行ハ義行ふせーよ行ーうーく
達事と行ーちーもけふとあーちて公ーふたをーーうう義張
ゆー
行ーうゆ行海川丑あ　あ欲ひて今和ーう義ハーう初和う

物ゝうゝ先て後二三ゝ言伝ゝさらしと小侍
後ゝりとゝらいひけゝゝ
おゝこゝろゝゝ世の中ゝゝゝゝて心とはゝゝ忘れやまひと
ゝゝ
いゝゝいきゝゝゝゝ忘れ君かよ我とはきふ世を病て
久しく言伝さらし女れをとゝらいひけゝゝハ
しゝ者ゝ
ゝゝ忘れと葵しみゝ
ゝ
玉章にかきけゝゝ文字ハゝんと我ゝゝゝ今ゝとゝゝゝん
疑行末悲　言様荒ゝ

未ゝゝ忘れゝと葵ゝひて逢あまれ我をとゝ家をもゝゝゝよ
悲乃ゝゝゝと
命をゝゝけゝゝゝゝゝんと思ゝとゝゝゝゝゝ

夜恋と云うもと　拾案十首内

秋もさそう枕とぬるそ袖の露　それはや神よあつらん

くるしひなきる女くつう者　仏さまそれ後

果ねとやこいきん　いとわき新枕とのんたそう

と世て今者伝さ　しらはうれしうはうくる

恋ひこ〻ろ　れかれ　れまのくるや行ものくるひん

ゆ

紅葉行とは海そもそ　根ようつる仏とそ夢

一會之後不會恋　欲林尭全

うしなとあてを忘　逢ると一夜てをんは祇ら色る

恋　絵正和尚家千合

海とふ恋のやまじと行とけそれのまうときうつりん

ゆとうえあ涙の川乃流き　袖と妹うあ方つ川そうあう

いか一人みくきう京一弁　仏ほうしんもかくて独ものまき

色随不會恋　法仏寺歌会

独ひまはさひうらきて　鄙西やこれろくあれのまあ

袖とん恋人恋

君と思ふ人乃公のうつ　ゆ作くやとれと新枕とん

恋自我ト人

我有とうとやうん　後の女ふれ神よつまう恋と

恋　若狭三位千合

恋三形ん後八焔とあり　ありは涙ちるくとや鶯

絵て久しくめくらの女ふうふ
まにまりとゆて後ひて非常の法をめんと
りてあかとゆて後かまうつうつ
ちむとゆてもかてちかめ水行ゆくそも思ひ出をん
ゆ
人をこれむとふるれとも三の親をこりあいちそられ
橋上待人
妹といてまを後の橋ゆ行ちんく方もみきとくれきを
悲東西人
いくかくていくくしかくて思へれをとりあれをこの
老後恋

逢事をてゆくてけおきあさふ待ちくの花我分と二人て
年老て後むしひ海ゆうちをの女とやきしきさ後よ
ちうてゆうてゆ
ふくくむしひれ寄ちくれとも世あ人の波ちてちうう
ゆ
老の後ゆかふちき岸の花ち方と思ふ分とふふちや
おるし人ちりとふ行ちゆ
年ちて後かくりあるる蛍れ行くあ筋ちわとそこへ
返
纐纈紋ちりてハ者の乱ちめ後の新はかく後筋ちを
おるし人れりとちち五月ハ日行やめそふふハ行ち

ぬ[illegible]付てはうつ[illegible]あり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雲の上まで聞こえつくべきうめもうえ侍りけれ新しき御新そろへ
北下より侍りしは内より宇治の山くまさしてき
いつもとて女房はりとへ侍りつゝ有
まとれ葉の下の風毒おきて苦くれるる我歌うれ
大内守護なりとあり上ゆるされぬるをと思ふねよ
しとなりとある法師幸ありて侍けるよ大宮
東なる小家よりてれかて侍りつゝ月れ侍りて
けまて冊後の内なれりとへつゝ有
人をまぬ大内山れ山ちを本くれてのを月とのみ
侍り
いはれなる月をみるとて歌侍りしれ代なりひつ

いとてはをるを侍りよ世なりて当今乃御ときき
敷上ゆるされく古れるまとり仮れ奇様て
ゆるをれ中より中宮亮重家ありとなりけり
くゝ有
海とにや春深き山ちれ今を出て月をとつゝ
侍り
うゝやをれ木くれ仏面山ちを侍りて月をとるゝ
おるゝ法を后文殿大夫弘長乃をとまりゝ
こひいをつゝれとくく
ひ春や四ひ初ゝけて九京れ宮乃橋新とれとゝ
侍り

[illegible]と行ひ[illegible]今[illegible]上にてあ[illegible]しき[illegible]
二代の御門は昇殿して作り時三位大進清
浦朝臣[illegible]
[illegible]
諸共に[illegible]
蓮華王院の執行静賀[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]少弁親宗朝臣[illegible]
[illegible]月の[illegible]
[illegible]
[illegible]月新に近[illegible]
[illegible]下の加賀[illegible]
[illegible]
[illegible]

位山はるかに見てゆく程とは
かゝる
義さしてゆく乃ち位山をたゞちに
同じくこの河中宮は大盤一所にして
てあり山さくらはなおとゝ
あり
のぼりて位山を雲紙上に見たるに
殿上人と女房と嬉しつゝ
とまきく神あそびなる姫さまあへとも天乃し浪
久し
秋とは名のみにて
さとかくれ
神の姫さに

三位大進法橋命
いとゝ秋をせくゝ思
返し
秋けれとも雲井にてもの思ふ乃三井寺にて
昇殿の時にはれまてに恢の事をも法ふ
なり家人綱を家家にひつゝけ
まは光
雲乃上と思ひ給へられる職あるゝ泥を
久し
雲乃上不の世もやらよを遥かに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女院百日の御懺法のそひ侍る布施より
[illegible]人の御[illegible]
[illegible]人と具し[illegible]
中宮[illegible]大進重家の[illegible]
[illegible]
音羽河とぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

述懷　敦頼　行吉子合

遠き年とはるかの濱まつの松を我身ひとつにかけるかな

お南入乃大谷とゝ入よりかくれて出るまでもきるこゝろ

てうこゝろとゝきこゝろ

雪分て詣とゝ思ふ人もとゝ世行に

おもひかの谷より出る雲も我こゝろとゝ行あと

きれとゝ入りるゝ形して行へてかまこゝろ

ゝ

ゝ

ゝ

ひ〜わらかあ〜ほの〜ふ〜ち世よあ〜ら〜ぬ〜ち〜こ〜てや
寶莊嚴院よ〜の〜て〜ね梅ゆりと申す〜く枝
約靜貴よ〜ゆ〜桜とし〜ひよ〜ら〜ゆ〜し
ゆ〜〜いえは〜〜明き毎ろ〜ひとりたるゆ
よ〜ら〜ゆ〜
れひとをみこん年れ春まて梅の大海〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
ゆ
ゆ〜も書をゆ〜ゆ〜ゆ〜深つ〜き〜橘〜毎〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
年ゆ毎ゆ人乃ゆ月十日ゆ毎橘の育けゆ
藤ゆ〜人ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

橘ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

引はきて世にあふれ侍りたつ乃ゆ三ゑ形をゆ行をゆ山ゑ
熊野よりはるゝ海つまゝ人なりけまはまるゝ海
礼ゆ乃ゆ
ゆ補別當大宣仁と申ゆ侍ゆ
ゆ間ゆ世ゆ行ゆゆ行ゆ雲て毋ゆひよゆて毋
乃ゆゆゆゆと思ひけゆ狂ゆゆ行花荒て人ゆ
新供行ゆる月ゆゆひゆく行ゆゆゆ抜
狂毋ゆひゆゆゆゆ毋
市ふれゆきゆゆゆゆ毋ゆゆ乃ゆ
ゆ
乃ゆゆゆゆ乃ゆ乃ゆ乃

同八月ゑんりとこ[illegible]筆を法ゑんとてけく紙
1書はまてけきう
やはり方より義ふ源うとうれあり我はくふてかきもうさあ
み
ふりうり砂洞より毎ふ水菫と我月乃前よりきてこそれ
あ毎女のりとへ山の塔より月ひうんとしうる程かき
毎月扇をはうんすとく
山乃ふに入るんっしうる月彩と我よりてて哀ととみよ
み
ふ世まてと君よう拝へてうる月とふ乳かきて人をとはうん
別當入道山雲よりもくしうるふ表海ふうしう

よむ[illegible]れ事とをかとかうはけくはくまつ来
とくく海て後うれうはけくはくまつ来
面乳ふうて毎ちうとて
有世れ表ふ[illegible]ふ毎ふ絵ふ入[illegible]ふ昔あ月
み
世とうり安をあくあ表ふ月我を昔乃ふうかとに
共浦入遠素寛年ふうう乃表ふとうて欲く
と世てとうふひつふとて
行をかふ助ふう乃書とおうくふふ清うと表とて変
八
末乃表りとの表下ふふふふふ海世上とうふて表ふ

[illegible]
九月廿九日の夜の天王ちへまいりて伊勢に
伊賀へ道后業へりとよりあとりて行まゐ
ちくとゆえて行ちう
[illegible]
[illegible]の国に新海浦の妹のもの兆を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物のうらにまつはるものくまなくて今
つくづくと面影のなつかしうひて秋
もすがら明かしぬ
後二三日ありて行つまくく一人ありとへ遣しもろ
君に行ひてつかはしうら昔とも歌ども
ぬ
我ものいさ昔ものこゝろ行ひさりけれ姑てうおとゝの
うまをいとひまうけて今ひとりれ女房うしうとゝいは
るをいとひまうけてさゝやかなるはきうしと
いひけるをそれらくハ後ことさあとて
かくてうしうはやうて考ものまうそれとうさひあ我ものひ
ぬ

ものとやさくハ行ものとおもひけるうへ今ハ絶て
あひもうして行女ものくはのもとをもうくしくを
こゝろくさうけまうそ自野はあうとうて日ものひ
ぬあるうをを受ておひけるうさひ人はいうそひ
とてやはうくしいるもうれい
いう孫うひ日ハ方方は妹と言て表小袖をそのうむう
大夫ハ後恵々行はかくあるくはゆうあひ表の
陸奥ものうを行うれいとうはうひはうう行
月をれとあうくくハもうの国ハ上はやはくあやまうもう後
ぬ

[illegible]

南殿の[illegible]ゆしうるとき人よりて後ちるべき
[illegible]人はいかんとおもひてかりて[illegible]
[illegible]月はなるほどまちのほとふひ[illegible]
[illegible]

[illegible]ん春の雪舟の花に移りきてるれゆへまつ[illegible]
[illegible]

[illegible]と雪のあのもとかくれたちに[illegible]やふきんとそん
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸新供乃前にて一只経供養仕候
勧持品の心と
今日十四日法華経と
化城喩品
[illegible]
[illegible]
[illegible]

花はさかりにて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清汎源家祖産得模四天下奇歌言直登
三位任射屋執紙九童知文武緯并
於此義膳忘所更誰成敗論切伺婦女
冤恨義是男兒陳巨壽蟲先殞兵使
故汨更垂哉右羨山陰宇河袞之幾傷
戶時臻壽永日寂夜泉下欣之恕不眉不
堂
皇恩酬戦沒義士佛宴物貝資蓮華像公
東濃地古柏依然相祠石馬欲衣生氣凛黄
鶴碧草后人悲西絃沒史談陳跡三尺成童激
照有客謁予題書四像長吟賛卷還之

右

寺殿正三位源氏頼圓大禪定門

宵儀置于　密嚴院常住

永享三年　月廿有四日

前南禪比丘惟寄侍最啓

右

帖為濃州山縣郡蓮華寺常住奉

當住青陽軒昌夏書記者也

延徳三年八月廿日　法眼紹元

住山曲又昌桂寄進焉

不許門外他借受用之旨衆評如件

明應第二癸丑林鐘吉日

衣院　敬教　判

兼隆寺　敬達　判

蓮華寺住山　昌桂　判

公卿補任云

從三位源頼政　治承二年十二月廿四日叙從三位

故兵庫頭從五位上仲正二男　母

年　白河院判官代保延二年四月十七日補藏人

同六月十三日從五位下　女御道子　御給　久平三年二月

日被聽叙福門院昇殿　久壽二年十月廿一日兵六

庫　保元三年二月二日院昇殿　市帰位日　未給　補任　猶人賞

同四年正日廿八日從三位　去年市帰位　正月叙河内

仁安元年十月廿日能所帯　兵庫頭叙正五位

千周十二月廿日聽内昇殿　時兵庫寮功　六条ニ　又聽内昇殿

文二年正月廿日從四位下　給之内　院還昇同三年

月廿日從四位上大膳大夫兼備後守正月十四日右
京大夫兼安元年十月廿六日正四位下院御給安元
二年二月五日罷所帶職以仲綱申叙正五位下
治承二年十二月廿四日從三位同三年十一月廿八
日出家四年五月廿六日薨同謀反之黨類被
梟首訖

▲清和天皇
- 貞純親王
  - 經基 六孫王
  - 滿仲 多田新發意
    - 頼光 四位侍従
      - 頼綱 多田三河守
      - 仲正 兵庫頭
        - 頼政 大内守護 兼文大内守護
          - 仲綱 中宮亮 兼院讃岐
            - 女 宜秋門院冊後
        - 女
        - 頼行

元暦元年七月十二日　源相自筆
昏鐘畢後九月始而尚十二月終功時限
某月也

右近衛權少將藤原判

于時元亀三年三月十八日書初六日宮
沈法奥州成都飯野平重隆入道
明徹耶持本写之云

寛文元辛酉年　臘月吉祥日

林和泉掾板行